

二つの苦しみ

沖縄県立沖縄高等特別支援学校二年

外當 わかな

「この世界の片隅に」というDVDを見ました。広島に原爆が落ち、家やいろんな物がまっ黒になったのを見たとき、「うえー」と思わず声が出てしまいました。まっ黒になって死んでいった人や亡くなった人にハエがブンブンとびまわっているのを見たときは何も言えませんでした。ただ、グロすぎる映像に目が点になりました。そして、DVDを見終わったとき、これが戦争なんだなと思いました。

五才のハルコが地雷で亡くなった場面は悲しすぎました。せつかく空襲をのがれてよかったと安心していただけなのに、あつという間の出来事に心が痛くなりました。それを近くで見えていたすずちゃんも、もつと苦しかったと思います。「すずが生きてくれてよかった」と言われても嬉しくなかったと思います。戦争のもうひとつの苦しみはここだと思います。ハルコは死んだのに自分が生きてよかったと思う人は誰もいないからです。どこに怒りをぶつけたらよいかかわからなくなつたすずちゃんの気持ちを理解してあげるのは、とても難しいことだと思いました。ぶじでよかったという言葉が、戦争時代にはこんなにも人を傷つける言葉だったのかと驚きました。

また、すずちゃんにはもうひとつの苦しみがありました。それは大好きな絵が描けなくなつたことです。右うでを失い、描きたい風景を見てもうまく描けない自分に、すずちゃんは悲しくなりました。私はすずちゃんの絵が好きです。だから私も悲しくなりました。すずちゃんにはずっと、ステキな絵を描いてほしかったです。戦争はこうして人の得意な事を奪ってしまうのです。大好きな物を奪われると人はやる気をなくします。夢がなくなつてしまいます。笑顔がなくなつてしまいます。だから私は戦争することには反対です。人々を幸せにしてくれる戦争ならいいけれど、人々を幸せにしてくれる戦争がこの世界にあるでしょうか。どこにもないと思います。

大人はみんなの生活を守るといふけれど、ニュースを見ると、国と国が自分たちの利益のために動いているようにしか見えません。総理大臣と大統領との話し合い

もどう話し合ったのか、私たちには全然わかりません。ニュースで見えるのは仲よく握手して笑っている姿だけです。それがホントだったら、もつと仲よくしてほしいと思います。時間をかけてしっかりコミュニケーションをとって話し合ったらいいと思います。まずは国と国が仲良しになることが大切だと思います。子どもが大人をまねて育つように、国を見て国民は育つのです。国民が心から国を応援できるように、私たちと仲よくしてほしいです。私もたまにケンカするけれど、ちゃんと話し合つて仲直りします。それが私の幸せにつながるから。